

Aブロックの「火」ベスト3です。

どきどきの初セッション。
あなたなら、どの作品を推しますか。
そして東工大生が1位に選んだのは…？

答えは作品のあとの解説にてどうぞ。

これといえば

一度燃えると一気に燃え広がるものといえば。

火でしょうか。

いいえ、それはやる気です。

冷えた時にこそあつたかく感じるものといえば。

たき火でしょうか。

いいえ、それはやさしさです。

なかなか消えずに、時には人を殺してしまうものといえば。

火事でしょうか。

いいえ、それは憎しみです。

種類はいろいろあっても、どれも輝きを放っているものといえば。

花火でしょうか。

いいえ、それは人です。

FIMのネタといえば。

炎でしょうか。

いいえ、それは命です。

暖炉の灯火

寒い、凍えそうな夜には、

石油ストーブに手を翳しながらふと貴方のことを思い出します。

ストーブは、貴方と共に暖をとったあの暖炉とはだいぶ違うけれど、それでも僕は暖を閉じるとあの暖炉の灯火が目に見えかけます。

何も知らなくて、何も分かっていなかったあの頃。

僕は貴方のひざの中で安らぎというものを覚えました。

外は、風がものすごい音をたてて吹いているのに、

家の中は不思議と静かで、火がぱちぱちと燃える音しか聞こえませんでした。

灯火は、明るくも、暗くもなく、幼い僕にたびたび夢を見せてくれました。

いつからか、僕は貴方のひざに甘えるのが恥ずかしくなって、

貴方の家にほとんど行かなくなりました。

そのうちにお父さんの転勤が決まり、東京に行くことになりました。

東京に来てからはお父さんもお母さんも急がしそうで、

僕も新しい友達を作るのに必死で、あの古めかしい家のことなんか、すっかり忘れていました。

それから七年後、あの電話があるまでは。

元気にしていますか。そこらはどんな風景ですか。

今は春で、僕は今もう大学生です。毎日楽しく過ごしています。

もう火を灯す季節ではないけれど、また冬が来たら、

あの時の様に、僕の心に火を灯してもらってもいいですか。

貴方の温もりを感じてもいいですか。ねえ、おじいちゃん。

ひのうえのひと

時代遅れの小さな村。そいつは初めから何かにおいが違った。

火あぶりの刑なんて、そうそう頻繁にあるわけじゃない。きつとこの女はよっぽどのことをしたんだろ
う、なんて思いながらぼーっと牢の中を見つめていた。体育座りのまま微動だにしなかったそいつは、僕
が飲み干した水筒を床に無造作に置くと、急にふわりと顔をあげた。

——あなた、名前は？

暗くてよく見えなかったが、どうやら微笑んでいるようだった。

ひとしきり、その女と他愛ない話をした。そいつは僕や父さんの話をやけに楽しそうに聞いていた。僕
と同じ年ぐらいい見えるのに、……なんだか僕を上から見ている感じがした。

——火あぶりなんて、何をした？

僕の話が終わった後、唐突にそう聞いてしまった。

——そうね、

ふふ、とその女は小さく自嘲気味に笑った。

——人間が生きていく上で、禁忌とされていること、かな。

翌日の朝。十字に組まれた木の上に、そいつの体が張り付けられた。首、腕、胴、足。明らかに堅くて
痛くて冷たい紐で強く縛り付けられているのに、笑っていた。

仕事だった。今まで何度もやってきた。死刑執行人、それはこの村の誰もが通る道。だけど今日だけは
なぜだか手が震えた。出来る限りそいつを見ないようにして火を付けてからも、ずっと震えていた。わけ
もわからず、がたがたがたがた、止まらなかった。

だけど、彼女は、笑っていた。

ちり、ちり。 そいつの体が少しずつ火にまみれていく。

ちり。 足下からすくうような炎。

彼女は思わず声をあげ、顔を背けた。そのとき肩先までの髪が揺れて、首筋が覗いた。

小さな痣？

僕は思わず自分の首に手を当てた。

人間が生きていく上で、禁忌とされていること？

確かに彼女は僕と同じ年ぐらいいだ。だけれども、やけに父さんの話を聞きたがったりまるで僕を小さな
子どもだと思っているような口ぶりだったり初めて会うはずなのにどこかでどこかで見ることがあるよう
な気がしたり側にいて欲しいと思ったり甘えなくなったり。同じ場所に、痣があったり。
そんなまさか？

確認する手段など何もなかった。ただ、僕は目の前の彼女を助けなければいけないと思った。

燃え盛る炎に飛び込んだ。熱かった。死ぬほど熱かった。だけれども僕はがむしやりに、必死になって
彼女を縛り付けるその紐を解こうとした。村の皆の静止の怒鳴り声が、遠くに聞こえた。

——何を、してるの？

もがいていると優しい音が天から降ってきた。見上げれば、彼女は泣きそうな顔で僕を見つめていた。

——お前は、いや……あなたは、僕の……

そう言いかけたと同時に僕の体は村の皆に引つ張られた。僕は彼女の呼び名であるはずのそれを何度も
何度も叫んだ。彼女の顔がくしゃっと歪んだ。

——ばかね。 どうして気づくのよ。

愛しそうに愛しそうに微笑んで、彼女の姿は揺らいで消えた。熱くて紅い、炎の中に。

1 いろいろな火 7位 4ポイント

暖かかったり怖かったり、おいしかったりミステリアスだったり、火のいろんな表情をコレクションしてきた、そのいろいろな感がとてもよく出ていて、擬音も楽しいし、とても快調な今年度の滑り出し作品でした。

さいご、お説教風にまとめてしまったところが、ちょっともったいない。尻文字あたりで軽く落として終わったほうが、この味わいを活かせたのでは？

2 ライオンからのメッセージ 4位 9ポイント

お次は動物モノ。それだけでなごみます。

ライオンに託したメッセージ、直球ですとんと心におさまりました。サーカスっていうと、つい動物虐待とか「かわいそう」路線に展開しがちなのですが、そこを敢えてポジティブにまとめたところに、限られた環境の中で努力することの大切さというメッセージも託されているのでは、と読みました。

3 これといえば 2位 22ポイント

直球が続いたあとで、ちょっと変化球か？

「いいえ」で受けるシンプルなフレーズの格調高さがとても颯爽とここちよかったです。ひとつひとつ含蓄深くて、読み返しつつ味わいたくなるような洞察。

さいごは、TIMにしないほうが、よい気もしましたが、このあたりは好みの違いかも。

4 暖炉の灯火 3位 11ポイント

ほのぼのおじいちゃん。

ひともしごろ、という美しい言葉を心に響かせながら読みました。暖炉が心に火を灯す。

でも電話は永久の別れを意味していたのだと作者さんトークで知って、ちょっとせつない読後感に変わりました。

5 お知らせ 9位 3ポイント

いや初回からいきなりそんな。

引っ張って引っ張ってドスン、の落差が絶妙でしたが、これだけ派手に予告を打ちちゃって、この作者さんの次回以降は？？？

6 感情として 7位 4ポイント

見出しと説明のキャッチボールのようなリズムが、いい個性でした。

消えそうな時に意識する、というくだりが特に印象的。心を落ち着かせるでまとめたところは、ややムリヤリだったのでは。

惜しい作品に選んでくれた班が3つで、今週の「惜しい大賞」です。

7 襲来 5位 5ポイント

白昼夢。火星人。そんなベタな。

でもって、とっても説得されやすいすなおな火星人さんが笑えます。

環境問題というとても大きな問題を扱っているのに、気楽に読めるふうわり加減がすてきでした。

8 たき火 10位 2ポイント

悲劇へまっしぐら。

最小限の言葉だけで情景をくっきり見せたのは良かったのですが、自分に火をつける、という結末に至る心境が唐突で、もう少しトレースして見せて欲しかったところ。

9 火男 5位 5ポイント

現代版賢治さん。フレーズをじょうずにシンクロさせ、うまくまとめているけれど、この路線で走るなら、御本家さんにならって、アキバ男の哀愁も感じさせて欲しかった。そうすれば、単なるネタでなくて、きっちり何かを伝える作品になったと思うのですが。

ちなみに「冥土喫茶」をイチオシフレーズにお選びくださった班が2ヶ……(以下略)

10 心にとるもの 12位 0ポイント

語り口がこなれていて、すうっと気分良く読めました。

でも、人の心の火という、とてもキケンなもののわりに、まとめがちょっと楽観的過ぎて、もう少しこの「火」さん、いろんなダークなものも見てきたんじゃないのかなあ、と思うのですが。

11 ひのうえのひと 1位 23ポイント

悲しい定め。セリフと情景だけの描写は、あたかも「僕」の視点になりきったかのようで、せつなさ全開。大きなストーリ

ーが、みごとに小さなB 5におさまってグレートです。

おかあさん!! せいいっぱいの呼び声が炎のかなたにこだまして。堂々の首位、**おめでとう!** 「ばかね、どうして気づくのよ」のキメゼリフが3つの班で選ばれて、今週のイチオシフリース大賞も同時ゲットです。

1 2 ろうそくの火 10位 2ポイント

ラストはさらりと。

命にたとえられたろうそくが、たくさん、けんめいに燃える美しい光景を見せていただきました。もうひとこと、きれいなシメがあると、より良かったか。